

2013年7月22日

## 「都市環境の変化と健康」科学委員会参加報告

花木啓祐（第三部会員）

会議名称：都市環境の変化と健康：システム解析アプローチ第2回科学委員会(SC)

2nd Meeting of Health and Wellbeing in the Changing Urban Environment: a Systems Analysis Approach, Scientific Committee

開催年月日：2013年5月22日～24日 場所：クアラルンプール

参加者：Indira Nath (India, Chair), Hany M Ayad (Egypt), Anthony Capon (Australia), Keisuke Hanaki (Japan), Saroj Jayasinghe (Sri Lanka), Susan Parnell (South Africa), Luuk Reitveld (Netherlands), Pierre Ritchie (Canada), Gerard Salem (France), Ilene Speizer (USA), Yongguan Zhu (China), José Siri (ICSU, ex officio), Carthage Smith (ICSU, ex officio through Skype) 13名

### 会議概要

Urban Health and Wellbeing Programme (UHWB)の科学委員会の第2回の会合であり、アジア太平洋地域で進められている活動との調整を図りながらプログラムを実施する計画の内容について議論が行われた。



### 議事内容抜粋

#### 1. 前回会議の議事録確認とフォローアップ

#### 2. SDG プロセス

ICSUとして関与している国連のSDG(Sustainable Development Goal)作成に関して、都市と健康の面について本委員会から貢献していく。

#### 3. 国際プログラムオフィス (IPO) 設置

インドおよび中国から誘致の提案があり、更に検討を行うために小グループが設置された。

4. ICSUのCommittee for Scientific Planning and Review (CSPR)におけるUHWBの位置づけ  
Future Earth (FE), Integrated Research on Disaster Risk (IRDR)に対して本UHWBを峻別し、オーバーラップはなくシナジーを構築するようにCSPRにおいて求められており、これらのプログラムとのコンタクトを深めることとする。

#### 5. ICSUの学会連合(Union)との関係

本プログラムの発足の経緯を考えるとUnionとの間に良好な関係を築くことが望ましく、IPO発足後データ面でのUnionからの協力を中心とした協働を進めることなどが考えられる。

#### 6. 国際会議 (“Intra-urban dynamics and health” 2013年9月11-13日、パリ)

Salem委員から準備状況の説明があり、コメントがなされた。

## 7. 資金元とのミーティングの可能性

現時点ではまだ計画の熟度が足りないので、IPO 設置後に検討する。

## 8. 地域プロジェクト委員会との共同シンポジウムと会合

Asia Regional Science Committee (ARSC)と協働する目的で共同シンポジウムを開催し、また同委員会との協議の場を持った。科学委員会は世界全体としてのポリシー、地域間の調整を行い、ARSCのような地域組織は地域特性を考えた導入を担当する。両組織は今後も協力関係を維持する。

## 9. ワーキンググループ作業

3つのワーキンググループに分かれ、SDG への貢献、必要なデータの特定、キャパシティビルディングについて議論を行った。

## 10. 次回会合

9月の学会の直前の2013年9月10日に開催（花木欠席予定）。次々回は2014年の1月末か2月始めに行う予定である。

以上